

7
Jly.

青年団第94回公演『ソウル市民』上演

30年以上の月日を超えて演じ続けられる、劇団青年団の代表作品。「日韓併合」を翌年に控えたソウル(当時の呼び名は漢城)にて、運命を甘受する「悪意なき市民たちの罪」。2022年はポーランド公演も実施し、大きな意味のある上演となりました。



青年団『ソウル市民』

8
Aug.

青年団第95回公演『銀河鉄道の夜』上演

二人の少年が数々の出会いと別れを通して成長していく物語。今回、夏休み期間中の毎週末にロングラン公演の実施を初めて試み、親子で、また子ども達だけのお客様もいらっしやり、たくさんの方に夏の夜空に浮かぶ銀河の世界を楽しんでいただきました。



青年団『銀河鉄道の夜』

9
Sep.

演劇人コンクール2022 三村聡演出『マクベス』上演

「地域を越え、国際的に活躍できる演出家の発掘と養成」をコンセプトにした演劇人コンクール。豊岡演劇祭2022の会期中に、最終上演審査が行われ、俳優の力量に圧巻の舞台でした！



演劇人コンクール2022
三村聡演出『マクベス』

10
Oct.

コトリ会議『全部あったかいものは』上演

兵庫県を拠点として活動する劇団コトリ会議。清涼飲料水工場の外れにある「まのわるい休憩室」に集まる「まのわるい人」たち。ぼつりとおきた「まのわるい」小さな事件を背景に、見応えのある作品で江原を盛り上げてくれました。



コトリ会議『全部あったかいものは』

青年団第97回公演『コントロールオフィサー』+『百メートル』二本立て公演

パリオリンピックを舞台とした気軽に楽しめる短編作品。ヒリヒリとした緊張感の中に、思わず笑ってしまう人間模様が展開され、客席にクスクス笑いが広がりました。



青年団『コントロールオフィサー』+『百メートル』

11
Nov.

情熱のフラミンゴ『ドキドキしていた』上演

劇作家の島村和秀が、昨年度に引き続きカンパニーのコンセプト「シリアスなのにくだらない」にさらに磨きをかけた、エッジの効いた作品を上演してくれました！



情熱のフラミンゴ
『ドキドキしていた』

青年団『サンタクロース会議』学校公演

毎年豊岡市内の全小学2年生を対象に上演している参加型演劇『サンタクロース会議』。今回も子どもたちはみんな真剣に会議に参加してくれました。学校に戻ってからも友達や先生と、クリスマスやサンタクロースについての議論が止まらなかったようです。



たじま児童劇団
『十五少年・少女漂流記』

1
Jan.

たじま児童劇団『十五少年・少女漂流記』上演

始動2年目も中高生の部が本格的な公演に取り組み、冬休みの中の短期間に集中して稽古に臨みました。その中でメンバー同士の仲もどんどん深まり、支えあう姿が印象的でした。本番期間に入ってさらに演技の熱が高まり、満員の客席が感動に包まれました。



たじま児童劇団
小学生の部 発表会

2
Feb.

出石特別支援学校高等部 卒業公演 上演

ワークショップから始まったご縁が、劇場公演にまで実を結び、本番では大輪の花を咲かせた3年生メンバー。客席の保護者の皆様と在校生に見守られて、最高のパフォーマンスを披露してくれました！

たじま児童劇団 小学生の部 発表会

半年間の活動の集大成として、たった3日間では子ども達だけで作り上げたにも関わらず、高いクオリティの創作劇を披露してくれたメンバー達に、客席から賞賛の拍手が止みませんでした。

2022年度も青年団公演から幕を開け、若手の劇団による上演やたじま児童劇団の上演など、バラエティーに富んだ作品を劇場から発信することができました。また公演だけでなく、教育機関での演劇的手法を用いたコミュニケーションワークショップや演劇ワークショップなど、江原河畔劇場の大きな事業として進めているアウトリーチ活動に、但馬地域のみならず、県内外からも大きく注目を集める年になりました。

今回の通信では、江原河畔劇場が実施するワークショップ事業についてご紹介いたします。まずは、2月に行われた兵庫県立出石特別支援学校 高等部の卒業公演の創作過程から上演の様子をお届けします。神戸新聞にも大きく取り上げられた、演劇ワークショップから発展した事業です。

ワークショップ事業



2月に江原河畔劇場で卒業公演を上演した出石特別支援学校高等部3年生。江原河畔劇場の俳優達がワークショップや稽古に赴いて指導しました。その上演までの軌跡が、神戸新聞さんに特集記事として3日間に渡り掲載されました。始動のきっかけやその成果がよく分かる内容となっています。



本番中の生徒達の様子。何度も稽古を重ねて、本番では一番輝いた演技を見せてくれました。

劇団『いずとく』(出石特別支援学校高等部3年生) 卒業公演 at 江原河畔劇場 までの軌跡

出会いは「演劇鑑賞会」
すでに彼らは俳優だった

出会いは2021年7月、豊岡市出石町にある近畿最古の芝居小屋「永楽館」での演劇鑑賞会でした。

これは、市が新型コロナウイルス感染症対策事業として実施した「THEATER(シアター)豊岡」という、普段劇場に足を運ぶ事が困難な方々にも安心してご来場頂ける様に、施設ごとに要望を聞きながら、障害者福祉施設のみを対象にして公演を行った事業です。

出石特別支援学校は、小・中・高等部からなる、知的障害のある生徒が約60名程が在学する豊岡市にある学校。

この日は、当時高等部1、2年生が青年団による公演『銀河鉄道の夜』を鑑賞しました。そして、鑑賞後は作・演出の平田オリザによるワークショップ。希望者が舞台にあがってシーンの一部を再現するというものです。これが予想以上に希望者が多く、ほぼ全員が舞台上で演じてくれたのです！

今思うと、既にこの時点から彼らの中に「演じたい」という思いが灯っていたのでしょうね。



『銀河鉄道の夜』出石永楽館公演 (2021)

その後、9～11月にかけて学校を訪問し、THEATER豊岡の事業で2年生を対象にした演劇ワークショップを4回実施。講師は青年団俳優の村井まどか。

初回は、挨拶から始まり、アイスブレイクゲーム、そしてさっそく劇を創作しました。アメリカ人の英語教師、人魚、消防士など、それぞれがやりたい役を演じ、物語を作って発表しました。初めましての私達に、すぐに打ち解けてくれて、何より演じることを心から楽しんでいて彼らを見て、村井は思いました。「彼ら、彼女らと演劇をもっと作って遊びたい...！」

その後2回目のワークショップで更に「自分がやりたい役」を全員に考えてもらい、青年団の若手劇作家が台本におこしました。自分達の役名が書いてある台本を手にした生徒達のくすぐったそうな表情、忘れられません。



自分がやりたい役を考えます

その台本の劇を、学校の発表会で保護者の方・校生徒の前で披露することになりました。3回目以降はワークショップという名のこれらもう「稽古」です(笑) もともと、自分がやっていることを途中で止められたり、何度も同じことするのが苦手な生徒が多い中で、「稽古」ってそういう繰り返しの最たるものにも関わらず、回を重ねるごとに集中力が増していく彼らに、講師の私達も本当に驚きました。



もはやワークショップという名の「稽古」

発表会ではセリフを完璧に覚え、堂々と演じ切っていました(と先生から伺いました)。劇を創作すること・「やりたい」を表現すること・人前で演じることに自信をつけたみんな！

しかし、次なる予想外のミッションが彼らを待ち受けていました。それは..

本物の劇場で「公演」を打つ！

ワークショップで見られた生徒達の変化や成長を細やかに感じ取ってくださった先生方の「もっと彼らに演劇をやらせてあげたい」という熱い思い、そして、私達の「彼らとともって演劇を共有したい」という思いが合致し、

国の助成金に採択され、江原河畔劇場の舞台で「公演」を行うことが決定！

生徒達は高等部3年生になりました。コロナ禍で過ごした3年間の学校生活を題材に、今回も生徒たちの「やりたい役」で、講師の村井が台本を書き「卒業公演」として劇場で披露します。

今回は「公演」なので、「みんな頑張ったね」で終わらず、自分達のやりたいことをしっかり「お客様に伝える」という更に難しい事に挑みます！それは、単に劇のためだけでなく、卒業後、社会に出ていく彼らに必要な力だから。

「伝える」こと、「伝わる」こと

昨年以上に、本格的な「稽古」に挑み、時には上手くできない自分に悔し涙を流す生徒もいました。しかし、それも彼らの成長のために必要な時間だ、と温かく見守ってくださる先生方。そして昨年以上に高い集中力で、自分の思いを、大きな声や体を使い、しっかりと「表現」にまで昇華させてた生徒達。何度も稽古を重ねます。

迎えた公演本番当日。照明・音響・舞台装置などを施し、客席は在校生・保護者の方々と満席、期待も緊張も最高潮の中、幕が上がりました。全員がうつむきながら登場し「2020年4月7日、緊急事態宣言、発令！」という台詞から物語は始まり、最後は曲に合わせて自由に踊り、自分にとっての「幸せ」を表現。客席からの大きな拍手と笑顔に包まれ、無事幕は下りました。

今までで一番のパフォーマンスを観せてくれたみんな。劇場にまたひとつ大切な思い出が生まれました。

彼らは、今も劇場にふらりと遊びに来てくれます。江原河畔劇場が彼らにとって安心できる場所の一つになれたならこれ以上嬉しい事はありません。



終演後みんなで記念写真

2022年度に江原河畔劇場が実施したワークショップ事業

江原河畔劇場は地域の劇場として演劇や芸術の教育普及のハブとなることを目指します。すでに実際に、豊岡市内の小中学校はもとより、市内二つの特別支援学校、但馬地域の多くの高校、そして他の自治体での芸術文化活動にも講師を派遣しています。私たちが行うワークショップは多岐にわたっており、企業研修や自治体の職員研修などにも利用していただいています。劇場で開催されるものもあれば、出張で伺うことも可能です。昨年度実施したワークショップを一部ご紹介いたします。

豊岡アートアクション 深さをもった演劇のまちづくり 「コミュニケーション能力向上研修」

兵庫県建設業但馬地区協議会の若手技術者を対象にした「演劇的手法によるコミュニケーション能力向上研修」。演劇的手法を使ったワークショップで、若手技術者の悩みに多いコミュニケーション不足の改善、仕事へのやりがいと定着率のアップを目指し実施されました。



豊岡市商工会青年部 研修事業「コミュニケーションを学ぶ」

ビジネスを行う上で必要なコミュニケーションスキルを演劇を使ったワークショップを通して学び、事業所内外や地域活動を継続するために必要なコミュニケーションスキルの向上を図り実施されました。



移住者交流イベント「河畔のつどい」

豊岡への移住者と地域の人々がゆるっとつながれる移住者交流イベント「河畔のつどい」が江原河畔劇場で開催され、2階スタジオでのワークショップには、まさに子どもから大人まで様々な年齢や業種の方が集い交流を深めました。

■その他、養父市立八鹿小学校教員研修、大手老舗旅館の新人研修 など

認定こども園 照福こども園

コロナの影響で学校や園での行事ができない状況の、夏休み期間に児童クラブを利用する園児・児童を対象に演劇ワークショップを実施しました。

養父市立八鹿青溪中学校

中学校2年生を対象に演劇ワークショップを実施し、普段の学校生活で発揮する機会の少ない生徒の協働性や表現力を発揮する機会を創出しました。



豊岡市非認知スキル向上事業

豊岡市内の全小学1年生を対象に、年3回のワークショップを継続的に実施しました。併せて専門家による非認知能力の数値測定も実施し、多くの分野において数値が向上しており、ワークショップの効果が表れています。

宝塚市自己表現力向上事業

自己の内面を表現することを通してコミュニケーション能力を培うとともに自己表現力の向上を図るため、宝塚市が2014年度から取り組む事業。2022年度から市内全校への実施を江原河畔劇場が受託しています。

■その他、文化庁の助成金を活用し演劇ワークショップを県内40校、のべ1883人の生徒に実施 など



2023年度は近隣自治体や県外からも続々とご依頼いただいております。注目が高まる江原河畔劇場のワークショップ事業、今後の展開にも是非ご期待ください！